



## 第2回水防センターのあり方検討会開催報告

開催日時：令和8年1月26日（月）  
午前10時～12時

開催場所：摂津市役所 301会議室  
出席者数：13名（欠席者数：2名）

第2回検討会では、第1回検討会でのご意見を踏まえた、災害時に必要な機能と施設規模の見直し案の報告を行い、災害時と平常時の双方の活用方法について意見交換を行いました。



### 主な意見

検討会での主な意見は、以下のとおりです。

今後は、いただいた貴重な意見を踏まえるとともに、避難行動要支援者※本人に対して意見聴取を行い、災害時と平常時の双方の面から必要な機能や施設規模を精査します。また、河川敷でのにぎわいづくり等に関する取組とも連動して検討を進めていきます。

※避難行動要支援者とは、要配慮者（高齢者、障がい者など）のうち、自ら避難することが困難な者であって避難の支援が必要な者

項目	主な意見
機能・規模について	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中管理室のような災害の情報を収集可能な諸室が、水防センターに追加されたことは、水防センターに避難された方に安心感を与えることにつながると考える。</li> <li>水道の他にも、電力関係や物資の補給路の確保の検討が必要である。</li> </ul>
備蓄について	<ul style="list-style-type: none"> <li>とりかいこども園への乳幼児の避難の誘導方法や、とりかいこども園と水防センター間での物資の運搬方法、とりかいこども園の避難想定人数を踏まえて、水防センターの機能や備蓄品を検討する必要がある。</li> <li>二次避難先への経路を確保・調整すると記載されているが、淀川の破堤箇所によっては避難経路が大きく変わることになる。必要備蓄量3日間の想定は最低限であると認識したうえで、空いているスペースを使って、備蓄量を充実出来ると良い。</li> </ul>
平常時の利活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>水防センターが住民と川を結び付ける施設になると良い。</li> <li>水防センターでのイベントは単ににぎわいづくりを目的として実施するだけでなく、避難行動要支援者を含めた多くの方に広域避難の必要性や水防センターの位置付けを周知することが最重要課題であり、イベントを活用した効果的な周知方法を今後継続的に検討していく必要があると強く感じる。</li> </ul>
今後の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に、複数の軸での動き（鳥飼地域のまちづくり、かわまちづくり、水防センターの検討）を統合することを前提とした計画を立てていただきたい。</li> <li>避難方法、避難場所、避難経路、逃げ遅れる人数、水防センターに逃げ込む判断基準（いつのタイミングで逃げ遅れたとするのか）、避難行動要支援者の介助者の確保等、災害時のオペレーションの整理が今後必要である。</li> </ul>

